



The 42nd Tokyo Motor Show 2011

PRESS INFORMATION
2011.11.30

コンセプト

- 01 The Power of Dreams／ブーステーマ
- 02 モビリティに、もっとドキドキとワクワクを！
- 03 モビリティミックス
- 04 エネルギーとコミュニケーションの創造

未来のモビリティ

- 05 AC-X
- 07 MICRO COMMUTER CONCEPT
- 09 MOTOR COMPO
- 10 E-CANOPY／RC-E
- 11 TOWNWALKER
- 12 FIT EV

現在のモビリティ

- 13 N CONCEPT
- 14 N BOX
- 15 CR-V
- 16 internavi
- 17 New Mid Concept
- 19 NC700S／NC700S Dual Clutch Transmission／INTEGRA
- 20 NC700X／NC700X Dual Clutch Transmission
- 21 Crossover Concept
- 22 CROSSTOURER／VFR800X MUGEN
- 23 CRF250L
- 24 CBR1000RR



The Power of Dreams

こんなモノがあれば、もっと便利だろう。こんなコトができたら、もっと楽しいだろう。

そんな夢を原動力に、私たちHondaはモノづくりにチャレンジし、
さまざまなモビリティを創造してきました。

私たちがモノを創る時に、大切にしていること。

それは、「にんげんの気持ちいいってなんだろう?」ということです。
人によって、場所によって、時間によって、いろんな「気持ちいい」がある。

それを徹底的に考え抜いて、カタチにすることで、
いろんな人に、いろんな「気持ちいい」を届けていきたい。
これこそが、私たちのいつまでも変わらない想いなのです。

今回の東京モーターショーでは、そんなHondaの姿を発信します。
ぜひ、見て、触れて、Hondaが創造する「気持ちいい」を実感してください。

そう、ここは

「気持ちいいってなんだろう」を研究する場所



モビリティに、

私たちは自問する。

モビリティは、どこまで人を「気持ちよく」させているのか？

簡単で便利なだけの、ただのノリモノになっていないか？

もっとドキドキと

Hondaが創るモビリティ。

そこには、ときめきがなくてはならない。

その先には、新たな発見がなくてはならない。

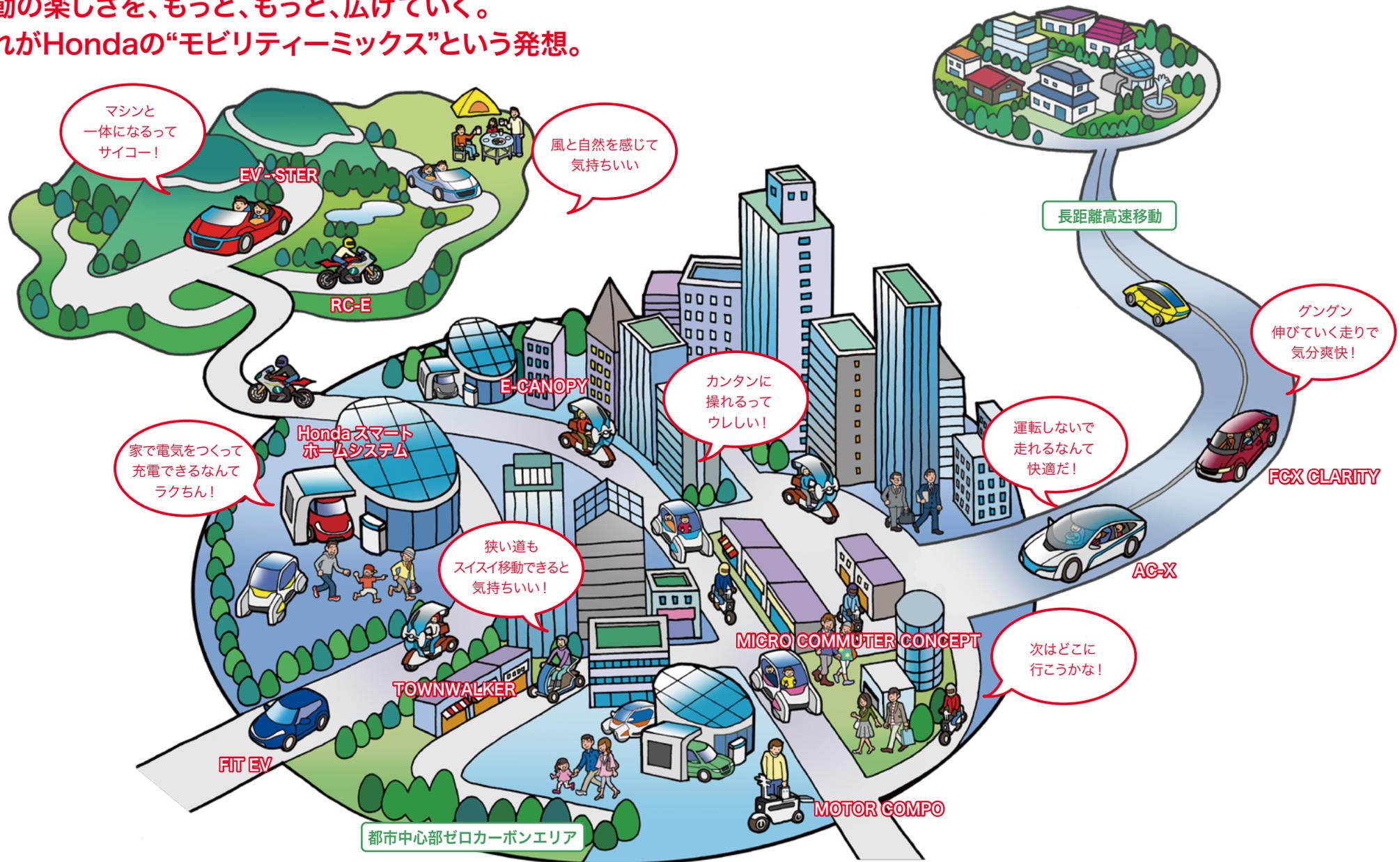
モビリティに、もっとドキドキとワクワクを！

楽しさと気持ちよさに満ちあふれた明日へ向けて、

Hondaの創造は続きます。

ワクワクを！

いろんなシーンの、いろんな“気持ちいい”を考えて、モビリティを創る。
モビリティを使い分けたり、組み合わせたりすることで、
移動の楽しさを、もっと、もっと、広げていく。
それがHondaの“モビリティミックス”という発想。



**クリーンにエネルギーを創ること。コミュニケーションを深めていくこと。
そうすることでモビリティの可能性は、ますます広がっていく。
そんな未来を、Hondaは思い描いています。**

ソーラー充電ステーション&水素ステーション

Hondaは2010年より、電動化技術を用いたパーソナルモビリティを軸に、ソーラー発電システムの充電ステーションや水素ステーション、さらに情報通信技術を駆使した実証実験を日本とアメリカでスタート。中国でも電気自動車での同様の取り組みを展開していく予定です。Hondaは今後も、CO₂ゼロ社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを行っていきます。



〈エネルギー〉

〈コミュニケーション〉

〈モビリティ〉



Hondaスマートホームシステム

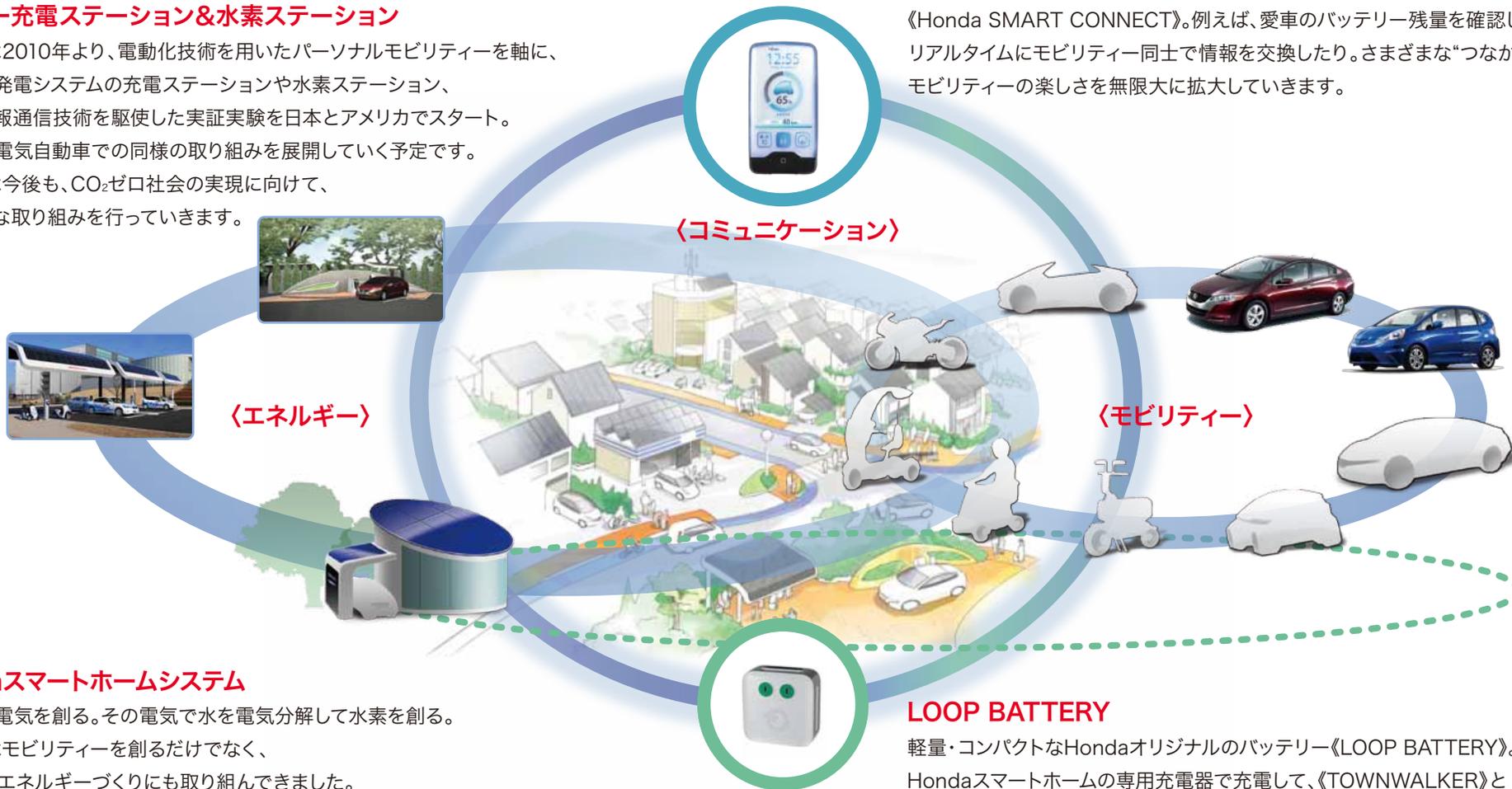
太陽から電気を創る。その電気で水を電気分解して水素を創る。Hondaはモビリティを創るだけでなく、低炭素なエネルギーづくりにも取り組んできました。そしてそのテクノロジーは家庭にも。2012年には太陽光発電システムやガスエンジンコージェネレーションユニットでエネルギーを創るとともに、用途や時間によって賢くコントロールする《Hondaスマートホームシステム》の実証実験を開始。その実用化に向けて、動き出します。

Honda SMART CONNECT

モビリティとエネルギー、モビリティとモビリティ、そして人とモビリティをつなぐコミュニケーションツール《Honda SMART CONNECT》。例えば、愛車のバッテリー残量を確認して充電したり、リアルタイムにモビリティ同士で情報を交換したり。さまざまな“つながり”がモビリティの楽しさを無限大に拡大していきます。

LOOP BATTERY

軽量・コンパクトなHondaオリジナルのバッテリー《LOOP BATTERY》。Hondaスマートホームの専用充電器で充電して、《TOWNWALKER》と《MOTOR COMPO》の走行用電源として利用できます。また、《MICRO COMMUTER CONCEPT》ではエアコンディショナーなどの補助電源として活用。さらに回生エネルギーによる充電も可能です。



AC-X



コンセプトモデル ■全長:4,700mm ■全幅:1,820mm ■全高:1,400mm ■ホイールベース:2,750mm

興奮もくつろぎも、この一台に。

人は、自らの欲求が満たされた時、最高の気持ちよさを味わうことができる。

そんな至福の喜びを、ロングドライブで心ゆくまで堪能して欲しい。

マシンとの対話を愉しみながら走りたい時は、エンジン走行モードにシフト。アグレッシブな走りを堪能できる。

気分転換にリラックスしたい時は、自動運転モードをセレクト。

ステアリングがインストルメントパネルに格納され、コックピットも心からくつろげる空間へ。

また可変バンパーが可動すると、フロントフェイスのデイライトが光り、もうひとつの表情が現れる。

興奮とくつろぎを自在に味わうことで、ドライビングの楽しみをいっそう広げていく。

それが、次世代クルーザー《AC-X》(Advanced Cruiser eXperience)からの提案です。

EV最高速度	100km/h	
最大航続走行距離	1,000km以上	
EV航続走行距離	約50km	
燃料消費率	プラグインハイブリッド	110km/L
	ハイブリッド	36km/L
モーター最高出力	120kW	
エンジン	総排気量	1.6L
	最高出力	95kW



相反する価値の融合を表現した、エクステリアデザイン。

エクステリアデザインのコンセプトは、「デュアル・ソリッド・モーション」。ボディ上部の躍動感あふれる塊とボディ下部を支える安定感のある塊。ふたつの塊を結合した造形で、力強い走りとともに、「興奮」と「くつろぎ」など、相反する価値の融合を表現。

またフロントバンパーが可動することで、Hondaデザインのアイデンティティを表現したフロントフェイスを強調。さらに、サイドのキャラクターラインに仕込まれたLEDが点灯し、《AC-X》が秘めた二面性をいっそう際立たせます。



人の気持ちにシンクロして応える、インテリアデザイン。

インテリアでは“アドバンスド・インターフェイス・インテリア”をコンセプトに、ドライバーを中心に広がっていくゆとりの空間をデザイン。心を駆り立てるエモーショナルなコックピットと人を優しく包み込むリラックス空間を両立。夜になれば、シート、インストルメントパネル、ドアライニングなどのファブリックが室内照明に反応し、浮遊感漂う空間に変わる。ドライビングの高揚感に浸りたい。クルージングの心地よさを堪能したい。相反する価値を両立させることで、乗る人の気持ちにシンクロして応えるデザインを追求しました。

ドライバーにもくつろぎをもたらす、自動運転機能。

どんなに運転の好きな人でも、高速道路などでのクルージングは時に退屈を感じるものです。そんな気分からドライバーを解放し、移動時間をより豊かなものにするために、自動運転機能を搭載しました。スイッチひとつで自動運転モードへ。ツインレバー・ステアリングがインストルメントパネルに格納され、ドライバーズシートはリクライニングし、オットマンも出現。コックピットが極上のくつろぎ空間となります。

高速クルージング時に高い安定感をもたらす、優れた空力性能。

フロントバンパー、サイドスカート、リアディフューザーを可変式とし、走行中の空気抵抗をコントロール。さらにタイヤには無回転のホイールディフューザーを採用し、風の巻き込みを抑えることで、高いレベル(C_d値0.21)^{*}の空力性能を獲得。モータードライブならではの伸びやかな高速クルージングを、より高い安定感のある走りとともに愉むことができます。

* フロントバンパー、サイドスカート、リアディフューザーが下がった状態での値



MICRO COMMUTER CONCEPT



コンセプトモデル ■全長:2,500mm ■全幅:1,250mm ■全高:1,430mm ■ホイールベース:1,860mm

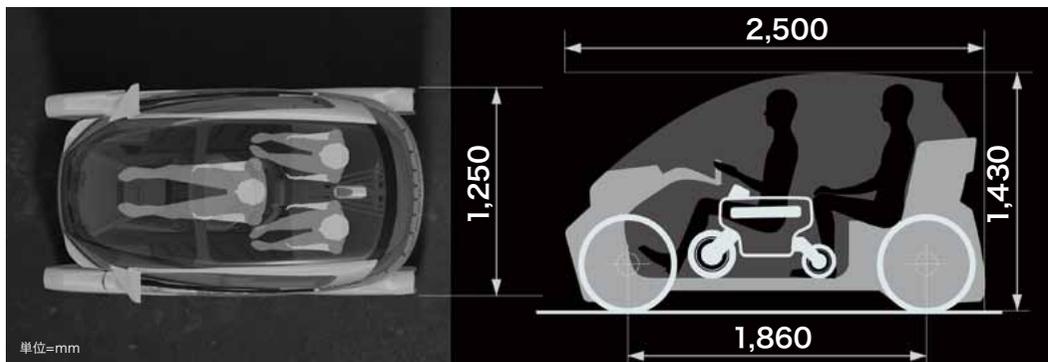


モビリティを着るような感覚で、移動を楽しむ。 未来都市型ケータイ・パワースーツ。

それはまさにジャケットを羽織るように、
気軽に身にまとして、都市の移動を楽しむモビリティ。
ドライバーズシートに身を置けば、しっかりとモビリティが身体になじんでくる。
内ポケットにしまうように、インストルメントパネルにスマートフォンをセット。
すると瞬時に、あなたのキャラクターや趣味嗜好に応える、
さまざまな情報がマルチプロジェクション・ディスプレイに表示される。
行き先をセレクトしたら、軽快かつスムーズに進進。
あなたを新たな出会いや発見の場へナビゲートする。
モビリティは移動のためのツールから、
お互いにコミュニケーションしながら未知の世界を広げていくツールへ。
そんな人とモビリティの新しい関係をもたらすコミュニーター。
それが、《MICRO COMMUTER CONCEPT》です。



最高速度	60km/h以上
0-60km/h加速	7.4sec
最大航続走行距離	約60km
充電時間	1時間以下(200V)2時間以下(100V)
バッテリー	種類
	最高出力
	リチウムイオン3.3kWh
	16.7kW



マイクロサイズのボディーに、3人乗車※の空間を生んだ新M・Mパッケージ。

バッテリーやパワーコントロールユニットなどのパワープラントをリアスペースに集約。またタイヤを可能な限り四隅にレイアウトするなど、人のためのスペースは最大限に、メカのためのスペースはできるだけ小さくするHondaのM・M(マンマキシマム・メカミニマム)思想を徹底追求。さらに低床フラットフロアに1+2のシートレイアウトにすることで、自転車感覚で操れるマイクロボディーでありながら快適に乗車できる空間を創造。運転席の横にはコンパクトEV通勤車《MOTOR COMPO》を積載することもできます。またサイズのメリットを活かし、縦列駐車も簡単にできるオートパーキング機能を採用しています。

※ 大人1名+12歳未満の小児2名の3人乗車または、大人2名乗車を想定

人とクルマを身近にする開放的で機能的なデザイン。

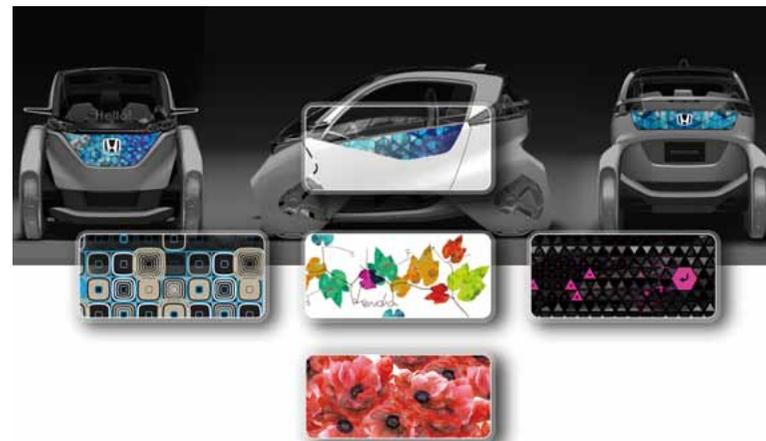
デザインは、エクステリアもインテリアも、シンプルかつダイナミックな機能美を追求しました。

カバーリングされたフェンダーデザインにより、人に寄り添うフレンドリーな印象と今にも駆け出しそうなスタンスを強調。またヘッドライトとマルチプロジェクション・ディスプレイを表裏一体とすることで、エクステリアとインテリアを機能でリンクさせました。さらにシースルードアの採用やフロントからリアまでつながる広いガラス面により、車内と車外のシームレスなつながりを演出。キャビンに圧倒的な開放感をもたらします。



お気に入りのアイテムのように、好みにカスタマイズ。

携帯電話やマイクランナーを自分好みにカスタマイズするように、エクステリアを気軽にカスタマイズすることができます。フロント、サイド、リアに好みの柄のシートを差し込むだけで、自分だけの一台に。これまでのモビリティにはない、手軽なカスタマイズ性が、人とモビリティの関係をより身近なものにし、カーライフをより楽しいものに変えていきます。



多彩な使い道で、楽しさ広げる《LOOP BATTERY》。

走行用バッテリーとは別に、エアコンディショナーやオーディオなどに補助電源として使用できる、Hondaオリジナルの《LOOP BATTERY》を搭載。走行時の回生エネルギーを活用して充電も可能。目的地に着いた後はシートから外して、《MOTOR COMPO》やパソコンなどを使う際の電源としても使用できます。



motor compo



コンセプトモデル ■全長:930mm ■全幅:489mm ■全高:957mm



EVは、これからもずっとElectric Vehicleのままなのでしょう
か？ 携帯電話がもはや既存の機能だけで語れなくなったように、
VehicleとElectricが出会った時に既存の枠を越えた新しい
ツールとしての可能性が開けるかもしれない。Hondaはそんな
夢を《MOTOR COMPO》で描きました。EVならではのクリーン
なデザインと、バッテリーやモーターなどのユニークなレイアウト

による非常にコンパクトなサイズを特徴としながら、走ること
のみならず携帯用電源としての様々な用途も期待できることで、
その活躍の場を戸外から屋内へも広げていきます。移動手段
としてのモビリティを超えた楽しい未来の「ワクワク」に向けて。
それが《MOTOR COMPO》の姿です。

みんながワクワクする、便利で楽しい生活のために。
未来のコンパクトEV通勤車。



立てても保管できる省スペース性に優れた車体。



Hondaオリジナルの《LOOP BATTERY》は取り外し式。



《MICRO COMMUTER CONCEPT》にも積載可能なコンパクトサイズ。



E-CANOPY

パーソナルでもビジネスでも活躍できる
三輪の次世代EVコミューター。



コンセプトモデル ■全長:1,600mm(ボックス付は1,770mm) ■全幅:720mm ■全高:1,680mm



Honda独自のスリーター(三輪スクーター)にEVシステムを搭載した静かで快適な次世代コミューター。市街地でのパーソナルユースだけでなく、ビルトイン可能なリアトランクの採用により、デリバリーなどのビジネスユースにも活用できます。コンパクトな車体に、防風・防雨・防塵効果を発揮しながら視界を妨げないクリアなキャノピーを装備。安心感のある低重心フォルムで、軽快かつフレンドリーなスタイリングを追求しています。

RC-E



走る喜びの新たな可能性を追求した、
EVスーパースポーツ。

コンセプトモデル ■全長:2,010mm ■全幅:625mm ■全高:1,120mm



スーパースポーツをEV化し、走りの喜びを追求したスポーツモデル。スタイリング、カラーリングは、Hondaスポーツバイクの原点である往年のレーシングマシン「RC」のイメージをモチーフに、シンプルかつモダンなボディーデザインにエモーショナルなグラフィックを採用しています。バッテリーは従来の燃料タンク位置と車体下部に配置。さらにモーターをスイングアームピボットと同軸とすることでマスの集中化を徹底しました。250ccクラスのコンパクトな車体サイズとEVならではのトルクフルでスムーズな走りによる、スーパースポーツの将来に向けた提案モデルです。

TOWNWALKER



コンセプトモデル ■全長:1,180mm ■全幅:550mm ■全高:910mm ■ホイールベース:890mm

誰もが気軽に楽しめるタウンモビリティをめざして。 シンプルと軽快さを追求した《TOWNWALKER》

「安心・快適なパーソナルモビリティ」という、
モンパルの開発コンセプトをさらに進化させ、開放感と軽快さをプラス。
誰もが気軽に街中での移動を楽しめる
パーソナルモビリティとして新たに提案するのが《TOWNWALKER》です。
骨格の素材にはアクリルやアルミを採用し、シンプルで軽快なデザインを追求しました。
またステアリング部とシート部を折り畳むことができるので、
クルマに積んでの移動も簡単に行えます。



折り畳みだけの簡単操作で、コンパクトに。



動力源となる《LOOP BATTERY》は、
水平にしてフロア下に搭載。



FIT EV



参考出品車 ■最高出力:92kW ■最大トルク:256N・m ■最高速度:144km/h

EVを、もっと賢く、もっと楽しく。《FIT EV》

経済性や環境性能だけが、電気自動車(EV)の魅力なのでしょうか。

EVだからこそ創造できる、新しい楽しさや価値がある。

そんな想いを胸に、Hondaの情熱と自由な創造力をたっぷりと注ぎ込み完成させたのが、《FIT EV》です。

まず経済性や環境性能では、世界トップクラス^{*1}の電費性能を達成。

その上でノーマル、ECON、スポーツと3つの走りがセレクトできる3モードドライブシステムを搭載。

ECONモードでは、より電費性能に優れた走りを。

スポーツモードなら、踏んだ瞬間にすどく加速する爽快な走りをあなたに。

その走りには、究極のクリーンカー《FCX CLARITY》が生み出す

異次元ドライブフィールのDNAが息づいています。

またEVの特性を踏まえ、日常での使いやすさを徹底追求。

フル充電は、200Vで6.5時間以内。夜間などの割引時間帯を利用して、

経済的に充電することができます。急速充電(CHAdeMO^{*2})では、

約30分で80%の充電が可能。さらに付属のEV双方向リモコンを活用すれば、

遠隔操作による充電やエアコンディショナーの作動も可能に。

エネルギーだけでなく、時間も賢く使えることで心にゆとりをもたらします。

EVの賢さと楽しさをさらに広げた《FIT EV》。

2012年、いよいよ日本とアメリカの道を走り出します。

※1 Honda調べ ※2 CHAdeMO協議会の急速充電器の商標名



3モードドライブシステム セレクトスイッチ



北米仕様車



EV双方向リモコン操作イメージ

N

CONCEPT



コンセプトモデル

日本の毎日に、新しいのりものを。 軽自動車からクルマの世界を変える 《N CONCEPT》

1967年、Hondaは一台の軽乗用車を世の中に送り出しました。
小さいからこそ、高い安全性を。小さくても、快適な空間を。
そして何よりも誰もが運転しても楽しいこと。
このような理想をカタチにしたHonda初の軽乗用車、
N360は、瞬く間に多くの人に愛される存在となりました。
あれから44年。

私たちは、これからの日本人のために、その生活のために、
そして未来のために、もう一度、ゼロから軽自動車を創ろうと思います。
それが、《N CONCEPT》。

Nというネーミングには、原点を継承するという想いととも、
New、Next、Nippon、Norimonoという意味が込められています。
そう、《N CONCEPT》はまさしく、
日本の新しいのりものを創るという志。

開発にあたっては、かつてN360がキャビンから設計されたように、
構造そのものから見直し、

新しいプラットフォームによる新たな空間を創造することで、
“Japan Best Small”をめざした《N CONCEPT》。

軽の新しい世界を切り拓いていきます。

Hello, small world!



N
CONCEPT_1



N
CONCEPT_2

N

CONCEPT



N
CONCEPT_3



N
CONCEPT_4

N BOX



市販車

- 全長: 3,395mm
- 全幅: 1,475mm
- 全高: 1,770mm
- ホイールベース: 2,520mm

※数値はN BOX (FF)。メーカーオプション非装着車

軽自動車の概念を超える、広さ・便利さ・経済性。 Hondaの魅力凝縮したミニ・ミニバン、《N BOX》

幅広いお客様に愛用される軽自動車は、日常ユースから週末のレジャーまできちんとこなす一台でなければなりません。私たち自身が「軽」という概念を頭からはずし、ファーストカーとしてあるべき姿をまっすぐに見つめることから開発はスタートしました。開発テーマは“ゆとりの創造”。まずは、“空間のゆとり”を追求し、限られたサイズの中で、人のための空間をどこまで拡大できるか。次に、街乗りも遠出も苦にならない運転のしやすさや経済性など、

“行動のゆとり”を追求。さらに、安心と安全を追求し、“こころのゆとり”の創造をめざしました。これらのすべてを、限られたサイズの中で実現するために、衝突に配慮した新骨格エンジンとセンタータンクレイアウトを核とした、革新のプラットフォームを新開発。その上で、マルチワゴンやミニバンづくりで磨き上げた独自技術と最新技術を、惜しみなく注ぎ込みました。そして、Nシリーズ第一弾としてお届けするのが《N BOX》。Hondaミニバンの魅力をそのまま軽サイズに凝縮した一台です。

N BOX



N BOX Custom



CR-V



市販車 ■全長:4,535mm ■全幅:1,820mm ■全高:1,685mm ■ホイールベース:2,620mm

誇りとこだわりを貫きながら、自ら時代をクリエイトしていく New《CR-V》。

1995年の誕生以来、CR-Vは都市での快適性とオフロードでの機能が受け入れられ、世界中で愛されるグローバルモデルに成長してきました。

その中で誕生以来変わらないのが、

「いつでも、どこへでも、気軽に、気持ちよく」走るクルマ、というコンセプトです。

このこだわりを貫きながら、New《CR-V》は、

これからのSUVが求めるべき資質を徹底的に磨き上げ、今という時代に真に誇れるクルマの創造をめざしました。

パッケージングにおいては低全高化をはかりながら、

さまざまな工夫を凝らすことで、従来モデルを超えるゆとりの空間を確保。

力強さを表現しながら、空力性能を追求した流麗なフォルムで包み込みました。

インテリアは装飾を凝らすのではなく、シンプルにすることで、上質で使いやすい空間に。

さらに空力や軽量化などにより、環境性能を徹底追求。

見た目だけでなく、そこに凝縮された、すべての資質が誇らしい。

自ら時代をクリエイトしていくNew《CR-V》の誕生です。



2.4L (4WD) 車には
新開発 REAL TIME AWD を搭載。



REAL TIME AWD機構イメージ

従来のリアルタイム4WDシステムを電子制御化。後輪の駆動力を緻密かつ素早くコントロールします。さらに機構の軽量・小型化により低燃費にも寄与しています。

internavi LINC

LINCは、LINK(つながる)+Communicationの造語です



ソーシャルでのつながりを進化させ続けるインターナビがクルマと人、クルマと社会、人と人のつながりを紡ぎだす。

世界初*の双方向通信型カーナビゲーション「インターナビ」を開発して以来、Hondaは、インターナビ装着車の走行データ(フローティングカーデータ)と、ドライブに関わる情報を融合し、社会とのつながりを進化させ続けています。今後さらにカーナビの枠を越えて、世の中の役に立つ、楽しさに満ちたつながりを創造していきます。

*Honda調べ

クルマと人をつなげ、被災地域とのつながりを。～「走行データ」の真価と応用～

東日本大震災の被災地域と支援の手をつなぎたいという想いから、フローティングカーデータを活用した通行実績情報を作成し、震災翌日より一般に向けて公開しました。「前日に通れた道」を毎日知ることで、被災地域でのより着実な移動が可能になりました。

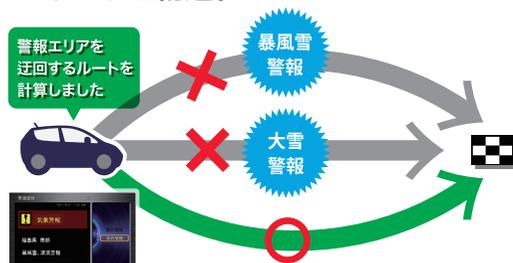


[Hondaのカーナビゲーションシステム「インターナビ」による、クルマの走行データ(フローティングカーデータ)を用いた情報サービスと、東日本大震災での移動支援の取り組み]



情報を融合させ、災害の未然回避をめざすつながりを創造。

「災害を未然に通知、回避する支援はできないか」という想いのもと、フローティングカーデータに基づく道路状況の予測情報と、ドライブルート上にある気象情報をつなぎ合わせ、運転に大きな影響のある気象警報発令のタイムリーな通知、さらに暴風雪警報、大雪警報の発令エリアを迂回するルートを提供する取り組みに着手しています。



クルマもソーシャルネットワークの一部に。人と人の新たなつながりへ。

長年クルマ同士のつながりを進化させ続けてきたインターナビが、今後はクルマもソーシャルネットワークの一部とすることで、「クルマと社会」「人と人」の新たなつながりを創造し、カーライフをより楽しく豊かにする、オープンな新サービスを提供していきます。

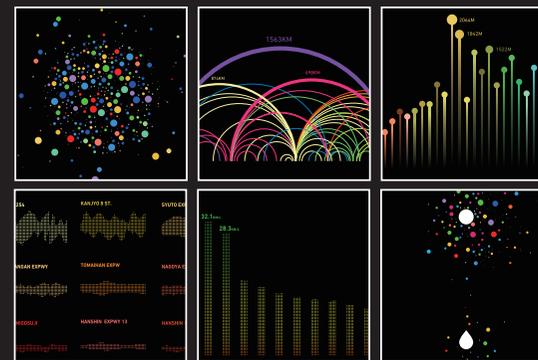
ドライブの思い出や記録をソーシャルメディアに自動保存する機能を皮切りに、今後はネットワークを通じて、より多くの皆様にインターナビの持つ情報を役立て、楽しんでいただけるようなサービスを開始します。



さらにつながりを進化させ、生まれ変わるインターナビ。

「クルマと人と社会」「人と人」のつながりを進化させるインターナビは、今後さらなる進化を遂げます。インターナビの新たな進化にご期待ください。

新しいインターナビの可能性をビジュアル化した、インフォグラフィックス”dots now”公開!



<http://www.honda.co.jp/internavi-dots/>

dots
by internavi

design our transportation story = dots
わたしと、どこか。わたしと、誰か。わたしと、世の中。
いくつもの点と点がつながることで、豊かなストーリーが動き出す。

FUNライディングと、日常での扱いやすさや利便性を高次元で融合させたニューミッドコンセプト。



ミドルクラス(排気量500~750cc程度の欧米における中型二輪車)のモーターサイクルに求められる楽しみはより多様化しています。高出力・高回転型のスーパースポーツとは一線を画し、郊外へのゆったりとしたツーリングもワインディングでのライディングも楽しみたい。さらに、所有感を満たすだけでなく

日常では走りをより快適に、より軽快に楽しみたいというお客様が増えています。また、通勤ユーザーの中には快適性や利便性、居住性はそのままに、時にはFUNライディングも味わいたいという要望があり、その両方のお客様のニーズが交錯した時代になってきています。

こうした背景の中、新たな市場を創造するモデルの実現を目指し、低・中速域での力強く扱いやすいトルク特性と、低燃費で優れた環境性能を両立した次世代グローバル700ccエンジンを新開発。同時に、軽量・コンパクト化とお求めやすい価格帯での提供を目指したHonda独創の第2世代「デュアル・クラッチ・トランスミッション」を開発し、操る楽しさとシンプルな操作性を高次元で融合しました。このモデルの開発にあたっては以下の目標を設定しています。

- 軽快なハンドリングと安心感のある操縦特性、快適なクルージングを実現するパッケージ。
- 幅広いお客様のニーズに対応した、異なるコンセプトの同時展開と、個性的な次世代デザイン。
- 利便性をさらに向上させた快適装備と豊富なオプション設定。

高出力・高回転型のマシンとは一線を画す、新たな価値を創造するニューミッドコンセプト。Hondaはこのコンセプトで、新たなモーターサイクルの遊びをより多くの人々に提案します。

優れた燃費性能を実現した、次世代グローバル700ccエンジン。

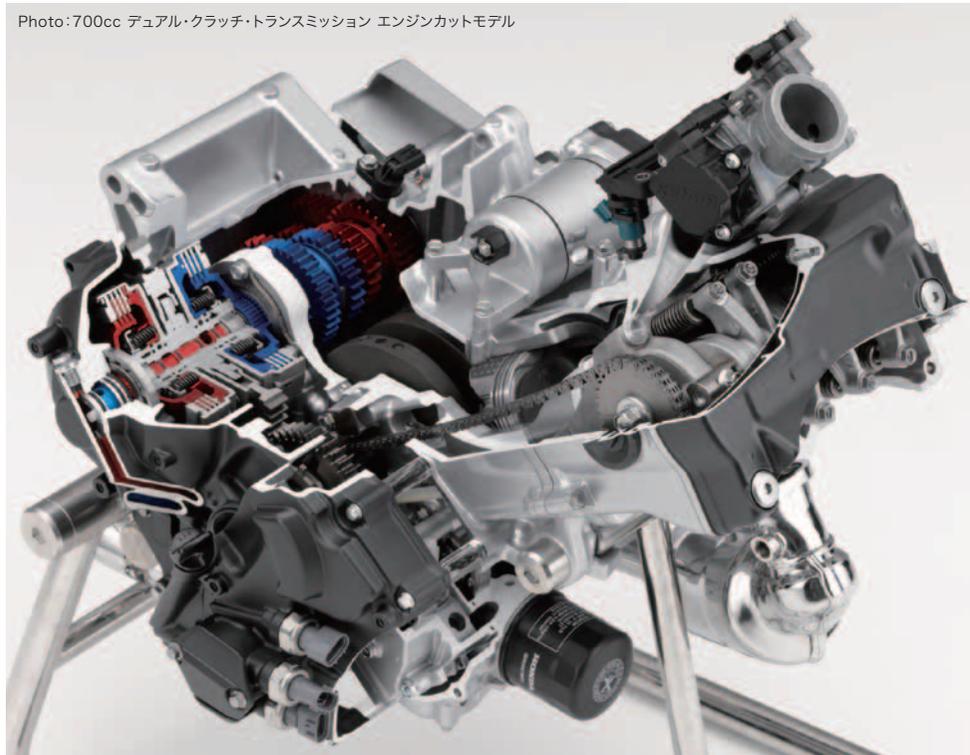
エンジンは、軽量・コンパクトで車体レイアウトの自由度に貢献して利便性の高いスペースを作り出せる700cc水冷・直列2気筒を採用。燃費性能は、ミドルクラス最高の27km/L以上^{*1}で、同クラスのスポーツモデルと比較して40%以上^{*2}の向上を実現しました。

※1 WMTCモード(欧州仕様車 Honda測定値) ※2 Honda測定値

多様なニーズに合わせたモデル展開を可能にした、 ニューミッドコンセプト共通のプラットフォーム。

優れた燃費性能により、同クラス車と同等の航続距離を確保しながら、燃料タンクの大幅な小型化を実現しました。これにより、燃料タンク配置位置の自由度を向上させたことで、従来の燃料タンク位置を大容量の収納スペースとしたり、乗降性への配慮や快適な居住空間を実現したりと、デザインの自由度が高い車体を具現化しました。車体を共通プラットフォームとしながらも、お客様の多様なニーズに合わせたモデル展開を可能としました。

Photo: 700cc デュアル・クラッチ・トランスミッション エンジンカットモデル



NC700S

NC700S Dual Clutch Transmission



FUNライディングの爽快さや機動力、快適性がより手軽に楽しめる
ユーザーフレンドリーなNEO 'FUN'CTIONALモーターサイクル。

市販予定車 ■全長:2,195mm ■全幅:760mm ■全高:1,130mm
■エンジン種類:水冷 4ストローク OHC 直列2気筒 ■総排気量:670cm³



Photo:NC700S

ネイキッドスポーツのモダンでシンプルなシルエットを基調に、躍動感あふれる力強いデザインと、モーターサイクル本来の操る楽しさを味わえる素直なハンドリング特性を融合。足着き性が良く安心感のある低シート高と軽快なネイキッドスタイルにより、気負わず気軽にライディングが楽しめます。スタイリングは、モーターサイクル本来の機能美を満たしながら、ライダーの居住空間と、十分な容量のラゲッジスペースを両立。《NC700S》シリーズは今までにない快適性を体感できる新しい価値を備えたシリーズです。 ※NC700Sは6速マニュアルモデルです。

INTEGRA



モーターサイクルの走りの楽しさに、通勤の快適性と
利便性を融合した、スクーターング・モーターサイクル。

市販予定車 ■全長:2,195mm ■全幅:790mm ■全高:1,440mm
■エンジン種類:水冷 4ストローク OHC 直列2気筒 ■総排気量:670cm³



優れたハンドリング特性によるモーターサイクル本来の操る楽しさや、第2世代のデュアルクラッチ・トランスミッションによるオートマチックでありながら力強いダイレクト感ある爽快な走り味を実現。モーターサイクルと通勤を融合した新コンセプトのキーワードは「SCOOTING MOTORCYCLE」としました。そのコンセプトを具現化した斬新なスタイリングに加え、パッセンジャーのより快適な居住性も追求しました。より多くのお客様が、モーターサイクルの爽快感や機動力、通勤の利便性を高次元で両立した魅力を味わい、今までのカテゴリーに縛られない自由な発想で楽しみ方を発見できる最高のパートナーとなることを目指しました。



異なる魅力が融合することで生まれる新価値を目指した
ニュー・クロスオーバー・モーターサイクル。

市販予定車 ■全長:2,210mm ■全幅:830mm ■全高:1,285mm
■エンジン種類:水冷 4ストローク OHC 直列2気筒 ■総排気量:670cm³



Photo:NC700X

これまでの考え方やカテゴリーにこだわらず、新たな可能性へのチャレンジから生まれる魅力を融合していくHondaのモーターサイクルづくりの新たなコンセプト「クロスオーバーコンセプト」に基づいたモデルです。都会でも、自然の中でも映える、躍動感にあふれ力強く洗練されたデザインに、アップライトなポジションによるオンロードでの快適性と行動半径を広げる機動力を両立。通勤・通学など、市街地で思いのままに使いながら、時にはロングツーリングも楽しめるなど、自由で幅広いライフスタイルを実現します。従来のモーターサイクルの魅力に加え、十分な容量のラゲッジスペースなど、日常生活での使い勝手にも配慮し、新たな価値を創造しました。 ※NC700Xは6速マニュアルモデルです。

ニューミッドコンセプト プロダクトの主な特長。



Photo:NC700S



Photo:INTEGRA



Photo:NC700X

INTEGRAにはシート下収納スペースを装備、NC700SとNC700Xには、ヘルメットが入る収納スペースを用意。



Photo:NC700X

インジケーター類を上方に配置した、視認性に優れた液晶メーター。



Photo:NC700X

共通ヘッドライトユニットを使い、モデルごとに個性あるデザインを追求。

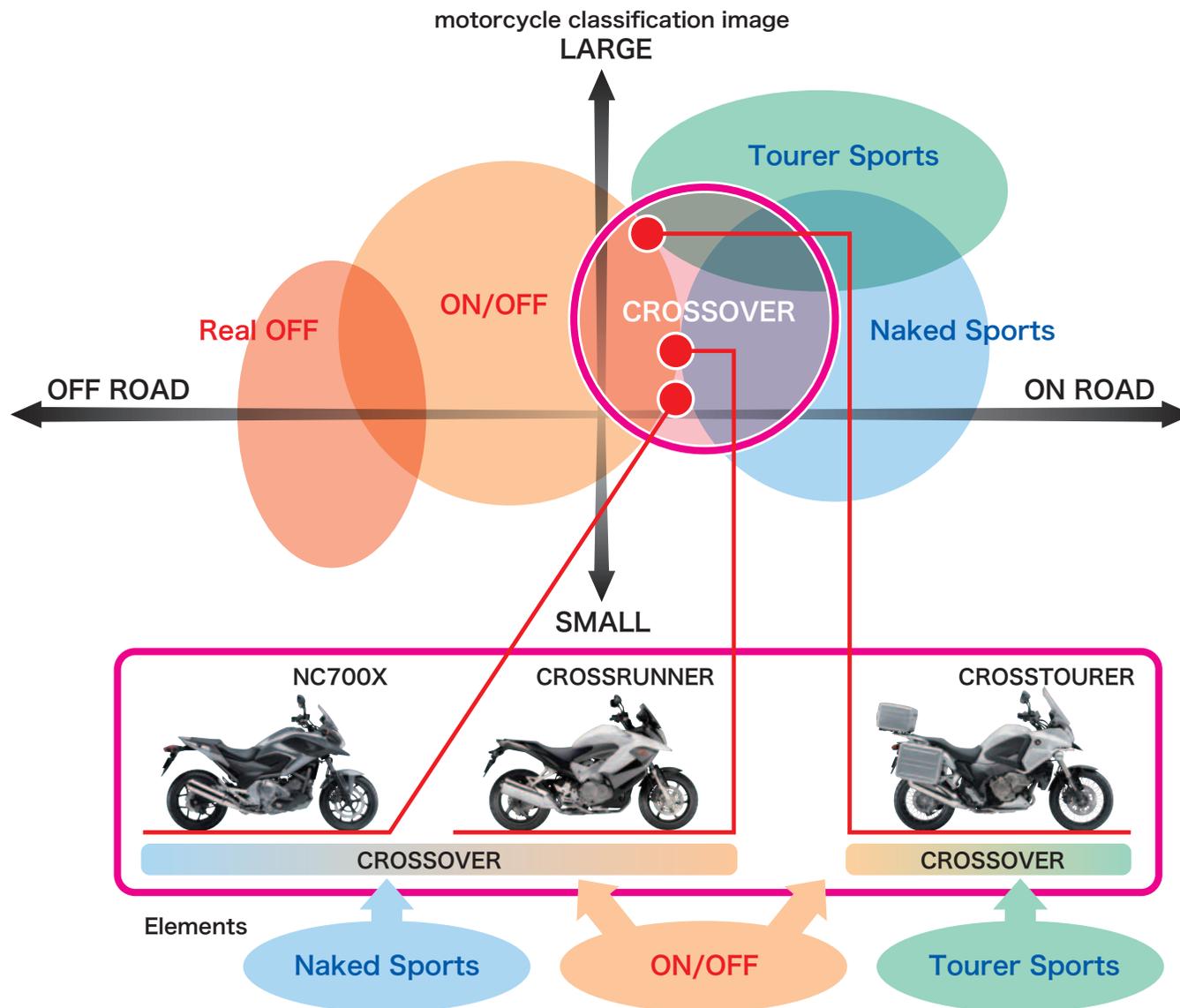
※メーター、ヘッドライト類は撮影のために点灯しています。

異なるカテゴリーを高次元で「融合」させ、新たな価値の創造へ。 Hondaの新たなチャレンジ、「クロスオーバーコンセプト」。

Hondaの考える「クロスオーバーコンセプト」は、二輪に対するこれまでの考え方に固執することなく新たな可能性を追求し、異なる価値を高次元で融合させるHondaの新たなチャレンジの方向性です。このチャレンジで、異なる楽しみを両立したいというニーズ、ライダーだけでなくパッセンジャーも楽しく快適に過ごしたいというニーズ、さらに多様化していく市場のニーズに応えていきたいと考えています。具体的には、

- スポーツモデルの運動性能
- ツアラーモデルの快適性とユーティリティ
- ネイキッドモデルのシンプルな外観
- オン/オフロードモデルの機動性とアップライトなライディングポジション
- 路面状況への追従性

これらの要素をモデルのコンセプトごとに高次元で融合することで、乗る人が、さまざまなシーンで自由に自分の思いに従って、新しい出会いや体験ができるモデルでありたいと考えます。そして、機能、性能、デザインがもたらす気持ちの豊かさを徹底的に突き詰めていくことを目指します。



CROSSTOURER



高い運動性能と快適性、冒険心をかき立てるスタイリングが融合した、クロスオーバーコンセプトモデル。

コンセプトモデル ■全長:2,284mm ■全幅:916mm ■全高:1,335mm
 ■エンジン種類:水冷 4ストローク OHC(ユニカム) 4バルブ V型4気筒 ■総排気量:1,237cm³



ツアラーとオン/オフロードスタイルを高次元で融合したクロスオーバーコンセプトモデル。HondaスポーツツアラーのトップエンドモデルであるVFR1200F Dual Clutch TransmissionのV4パッケージをベースに開発し、高い運動性能と快適性を両立。冒険心をかき立てる佇まいにより、新たなバイクライフを予感させるモデルとなっています。

VFR800X MUGEN

スポーツモデルの楽しさと、道を選ばない機動力が融合したクロスオーバーコンセプトモデル。

参考出品車(特別輸入車) ■全長:2,130mm ■全幅:800mm ■全高:1,240mm
 ■エンジン種類:水冷 4ストローク DOHC 4バルブ V型4気筒 ■総排気量:782cm³



スポーツツアラーとオフロードテイストを融合したクロスオーバーコンセプトモデル。より扱いやすくなったV4エンジン特有の、低速から全域にわたるパワフルなエンジン特性に加え、アップライトで自由度の高いライディングポジション、機敏でスムーズなハンドリング、高速域でもしっかりとした走行性能などを実現し、より幅広いシチュエーションでのライディングプレジャーを追求しました。

CRF 250L



日常での扱いやすさとオフロードでの楽しさを両立したフルサイズ250ccオン/オフモデル。

市販予定車 ■全長:2,195mm ■全幅:819mm ■全高:1,195mm ■エンジン種類: 水冷 4ストローク DOHC 4バルブ 単気筒 ■総排気量:249cm³



よりアグレッシブなスタイリングのカスタマイズコンセプトモデル。



CRF450RスタイリングイメージCG。

Hondaオフロードモデルの最新トレンドを投入したスタイリングに、低回転域からトルクフルで、高回転域までスムーズに吹き上がるPGM-FI採用の249cm³・水冷・4ストローク・DOHC単気筒エンジンを搭載したフルサイズのオン/オフモデルです。フレームはスリムな車体と十分な縦剛性を両立したオーバル

パイプのスチール製ツインチューブフレームとし、サスペンションはフロントに倒立タイプ、リアにはプロリンクサスペンションにアルミスイングアームを組み合わせて採用しました。放熱性に優れたウェーブ型ディスクブレーキや、泥、石飛びなどからエンジンを守るスキッドプレートなど、本格仕様の装備も充実。また、

リニアなハンドリング特性、フルサイズの車格でありながら良好な足着き性を実現するシート高、優れた燃費性能、多機能デジタルメーターの採用など、日常での使い勝手も追求しました。

CBR 1000RR



HondaのレーシングDNAを受け継ぐ、 高性能スーパースポーツのフラッグシップ。

市販車 ■全長:2,075mm ■全幅:680mm ■全高:1,135mm ■エンジン種類:水冷 4ストローク DOHC 4バルブ 直列4気筒 ■総排気量:999cm³



軽快なフットワークを感じさせるアルミキャストホイール。



多彩な表示機能を備えたフル液晶画面のメーター。
※メーター類は撮影のために点灯しています。

《CBR1000RR》は、スーパースポーツとしての操る楽しさを追求し、卓越した走行性能と機能性を実現した高性能スーパースポーツモデルです。フロントサスペンションにφ43mmのビッグ・ピストン・フロントフォークを採用し、作動性など減衰力の過渡特性を向上。リアサスペンションには世界初*

となるバランス・フリー・リアクッションを採用しました。さらに、ホイールはスポーティーな12本スポークの軽量アルミキャストホイールに変更しました。これら脚回りの設定により、トラクション性能、制動性能、操縦性と旋回性の進化を実現しました。また、スタイリングは、これまでのマス集中フォルムを

基調としながらも、よりシャープでアグレッシブなフォルムに一新しています。 ※Honda調べ